

2024 年 5 月 10 日

令和 5 年度「鈴鹿医療科学大学データサイエンス（リテラシー）教育プログラム」自己点検・評価結果

数理・データサイエンス・AI 教育プログラム認定制度(リテラシーレベル)の自己点検評価項目に従い、以下の項目 について点検評価を行った。

【学内からの視点】

1・教育プログラムの履修・修得状況、学修成果に関する事項

令和 4 年度から本教育プログラムを全学部 of 1 年生を対象に開始し、令和 5 年度は 2 年目の実施となった。この教育プログラムでの修了要件となる授業科目「医療人底力実践Ⅲ（データサイエンス）」(1 年秋期、1 単位) は、医療人として不可欠な能力を育成すべきであるという観点から、全学のディプロマ・ポリシーに対応し、全学部の 1 年生での必修科目とし、本学の特色ある「医療人底力教育ⅠからⅣ」(全学部必修科目) の一科目とした。そのため、当初から履修率は高く、履修・修得状況は以下の表のようになった。

[対象学生に対する履修者（修了者）数の比率]

学部名称	令和 5 年度			令和 4 年度		
	履修者数	修了者数	履修率（％）	履修者数	修了者数	履修率（％）
保健衛生学部	395	390	98.7	428	426	99.5
医用工学部	60	57	95.0	78	78	100.0
薬学部	79	77	97.5	78	77	98.7
看護学部	98	95	96.9	101	101	100.0
合 計	632	619	97.9	685	682	99.6

学修成果に関しては、学生がデータサイエンスについて興味を持つようになり、Excel の関数の使用方法やグラフの作成方法に関して理解を深めた。また本学で実施している鈴鹿市福祉ロボット推進事業（自律動作支援をするための装着型サイボーグ HAL）などに興味を示すようになった。

2．学生アンケート等を通じた、学生の内容の理解度・他の学生への推奨度に関する事項

本プログラムを含む、すべての授業を対象とした学生アンケートを実施し、学生による授業評価・理解度等について把握している。本プログラムの授業科目に対するアンケートの分析結果の理解度に関連する主な項目は以下のようになった。なお参考のために、全科目の平均を()内に記載した。

Q3 あなたはこの授業について自主的に予習や復習、教員への質問を行うなど、成績向上につながる努力をしましたか。

A3 強くそう思う 37% (34%),ややそう思う 39%(35%),どちらとも言えない 19%(18%),あまりそう思わない 4%(4%),全くそう思わない 1 % (1%)

Q5 教員は、学生の理解度を見ながら難易度レベルの設定や授業の進める速さを工夫していましたか。

A5 強くそう思う 46%(45%),ややそう思う 41%(39%),どちらとも言えない 12%(15%),あまりそう思わない 2%(2%),全くそう思わない 0%(0%)

Q6 この授業は、あなたの知識を深め、能力を高めるものになっていましたか。

A6 強くそう思う 46%(48%), ややそう思う 44%(40%), どちらとも言えない 8%(11%), あまりそう思わない 1%(1%), 全くそう思わない 0%(0%)

Q7 この授業に対する総合評価をしてください。

A7 強くそう思う 47%(49%), ややそう思う 45%(38%), どちらとも言えない 8%(12%), あまりそう思わない 1%(1%), 全くそう思わない 0%(0%)

また学生アンケートの結果は、本学の e ラーニングシステム A-Portal で全教職員と学生が閲覧できるように公開している。

3. 全学的な履修者数・履修率向上に向けた計画の達成・進捗状況

本学では、全学のディプロマ・ポリシーに「保健・医療・福祉専門領域の最先端の進歩の状況を把握し、数理・データサイエンスを活用できる。」ことを明記しており、現在、全学でデータサイエンス教育を推進している。

本プログラムは、このポリシーを具体化させる一過程であり、全学部・全学科の 1 年生の必修科目であり、4 年制の学部については、現在、約半数が履修しており、6 年制の学部では約 3 分の 1 の学生が修得しており、学年進行により、4 年後には、全学生が履修し、修得する予定である。

【学外からの視点】

1. 教育プログラム修了者の進路・活躍状況、企業等の評価に関する事項

本プログラムの修了者は、まだ卒業していないが、本学の卒業者は、医療福祉機関をはじめとし、企業・自治体などの広い範囲で活躍している。それで、本プログラムを修了した学生は、社会の幅広い分野でデータ分析をする有用な人材として活躍することを多くの地域の人々は期待している。

2. 産業界等社会からの視点を含めた、教育プログラム内容・手法に関する事項

産業界と他大学の教員からの意見を伺うために、昨年度、三重県産業支援センターが主催している「データサイエンス研究会」と、三重大学北勢サテライト主催の「健康福祉システム開発研究会」で、本データサイエンス教育プログラムに関して研究発表を行い、産学官のデータサイエンスに関心がある関係者からの意見徴収を行った。その結果、令和 6 年度の授業に三重県のデータサイエンスの利活用の事例を取り入れる予定である。

また地域の自治体からの意見を伺うために、鈴鹿市の事業にデータ分析の分野で協力しており、本教育プログラムについての意見も徴収している。その結果、鈴鹿市から本学の教員に依頼され、現在、データ分析している鈴鹿市高齢者フレイル予防対策事業での高齢者約 200 人の 2 年間にわたる体力測定データの分析について、多くの本学の学生がデータ分析に協力し、自治体の行っている福祉事業に関心を持ってほしいとの要望があり、令和 6 年度の授業では、このデータを分析する演習を行う予定である。